

初版第1刷におきまして下記のような誤りがございましたので、お詫びのうえ訂正をさせていただきます。

- ・ 19頁 Navigation1-11 2行目
(誤) ごくわずかに変化したときの独立変数
(正) ごくわずかに変化したときの従属変数
- ・ 41頁 2, 3, 6, 8, 9行目 (下付の y_X を Y_X にする)
(誤) MRS_{y_X} (正) MRS_{Y_X}
- ・ 71頁 Navigation3-4 2行目
(誤) 変化させるための
(正) 変化させないための
- ・ 90頁 上から14行目
(誤) 平均費用より大きく
(正) 平均費用より小さく
- ・ 132頁 図4. 22を下のように変更

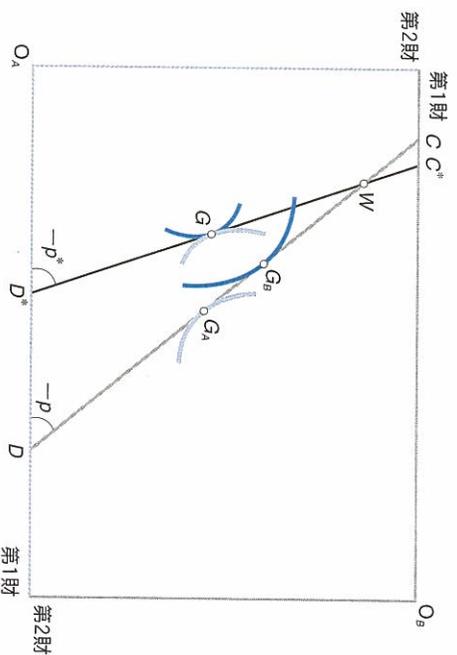


図4.22 一般均衡点

・ 136頁 図4. 23を下のように変更

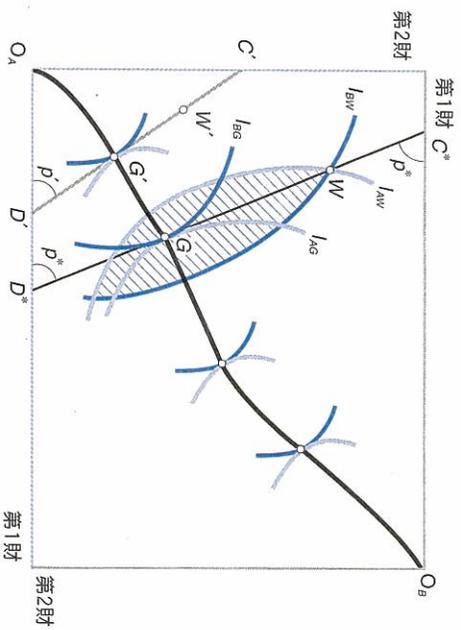


図 4.23 契約曲線とパレート最適

・ 141頁 図4. 25を下のように変更

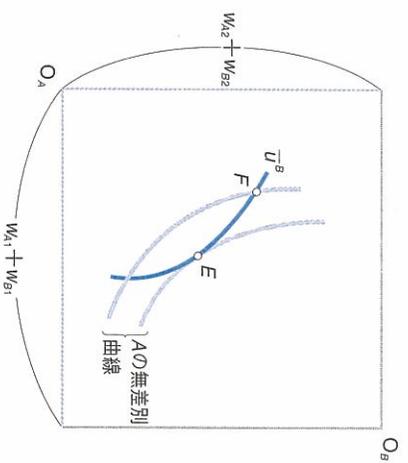


図 4.25 パレート最適と効用フロンティアの関係

・ 151頁 上から13行目以下を下記のように変更

このとき右辺第2項は、 $y=D(p)$ の逆関数が $p=G(y)$ ですから、 $\frac{dG(y)}{dy} = \frac{1}{dD(p)/dp}$ となります。なぜなら $y=D(p)$ と $p=G(y)$ より、それぞれその微分は、

$$dy = \frac{dD(p)}{dp} dp, \quad dp = \frac{dG(y)}{dy} dy$$

となり、これらの式はそれぞれ

$$\frac{dy}{dp} = \frac{1}{dG(y)/dy}, \quad \frac{dy}{dp} = \frac{dD(y)}{dp}$$

と変形でき、ゆえに

$$\frac{dG(y)}{dy} = \frac{1}{dD(p)/dp} \tag{5.2}$$

となるからです。

ここで価格の変化率 $\left(\frac{dp}{p}\right)$ に対する需要の変化率 $\left(\frac{dD(p)}{y}\right)$ の割合を正の値で表したものを e とすると、 e は

・ 176 頁を下記のように変更

この市場の均衡については次のようにしても説明できます。各企業の費用関数は同一で $C(y)$ とします。 n 個の企業が市場に参入しているときの各企業の直面する逆需要関数を $p = G(Y)$ とします。ただし $Y = y_1 + \dots + y_n$ で y_i , $i = 1$ は第 i 企業の生産量とします。 $p = G(Y)$ における Y と p の関係は右下がりで企業数が大きくなると左側にシフトする曲線で表されます。 n 個の企業が参入しているときの各企業の利潤最大化行動は

$$\text{Max}_{y_i} \pi_i = G(Y)y_i - C(y_i)$$

で表されます。最適な y_i はこの利潤最大化問題の 1 階の条件

$$\frac{d\pi_i}{dy_i} = G(Y) + G'(Y)y_i - C'(y_i) = 0 \quad (5.16)$$

をみたさねばなりません。ここで、各企業の費用関数 $C(y)$ は同一であることから (5.16) をみます y_i は全ての企業の間で同一となります。すなわち $y_1 = \dots = y_n$ となります。そこでこれを y とすると $Y = y_1 + \dots + y_n = ny$, $y_i = y$ より, (5.16) は

$$G(ny) + G'(ny)y - C'(y) = 0 \quad (5.17)$$

となります。一方、市場の均衡では企業の利潤はゼロですから

$$\pi_i = G(ny)y - C(y) = 0 \quad (5.18)$$

です。(5.17) と (5.18) を y と n について解くことで、市場の均衡における各企業の生産量 y と企業数 n が決まります。

(5.16) と (5.17) の下では平均費用曲線と企業の直面する需要曲線が接することを確かめておきましょう。平均費用 AC は $AC = \frac{C(y)}{y}$ ですから、その傾きは

$$\frac{dAC}{dy} = \frac{C'(y)y - C(y)}{y^2}$$

となります。これは (5.17) と (5.18) を使うと次のように書き換えられます。

$$\begin{aligned} \frac{dAC}{dy} &= \frac{C'(y)y - C(y)}{y^2} = \frac{C'(y)y - G(ny)y}{y^2} \\ &= \frac{C'(y) - G(ny)}{y} = \frac{G(ny) + G'(ny)y - G(ny)}{y} = G'(ny) \end{aligned}$$

一方、 $p = G(ny) = G(Y)$ より

$$\frac{dp}{dy_i} = G'(ny)$$

ですから平均費用曲線と逆需要曲線の傾きは等しくなります。すなわち 2 つの曲線は互いに接することになります。

・ 188 頁 Navigation6-3 4 行目

(誤) 外部不経済があるとき,

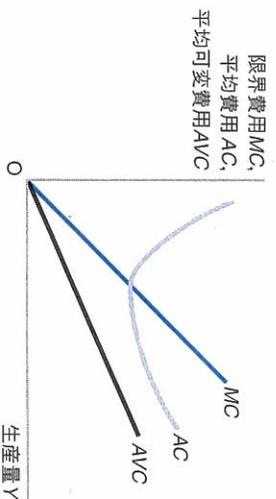
(正) 外部経済があるとき,

・ 練習問題解答 271 頁 上から 2 行目

(誤) 200/2x

(正) 200/2p

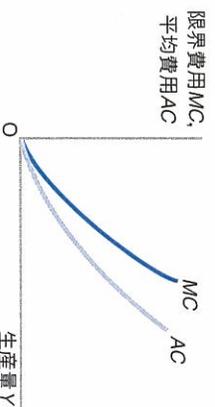
・ 練習問題解答 272 頁を下記のように変更



よって原点が操業停止点であるため、供給関数は限界費用関数全体となる。すなわち $p = MC = Y$ より Y を供給量 S として $S = p$ が供給関数となる。

(2) Y を一定として費用最小化問題を解く。 $Y = L^{1/2} K^{1/4}$ より $Y^4 = L^2 K$, すなわち $K = Y^4/L^2$ である。これを用いると, $w = 2, r = 1$ のときの費用 C は $C = wL + rK = 2L + Y^4/L^2$ となる。これを L について最小化する。 Y を一定として最小化の条件は $dC/dL = 2(1 - Y^4/L^3) = 0$ すなわち $1 - Y^4/L^3 = 0$ であるから, $Y^4 = L^3$ となる。よって $L = Y^{4/3}, K = Y^4/L^2 = Y^4/Y^{8/3} = Y^{4/3}$ となる。よって長期の費用関数は $C = 2Y^{4/3} + Y^{4/3} = 3Y^{4/3}$ となる。長期の限界費用関数は $MC = dC/dY = 4Y^{1/3}$, 平均費用関数は $AC = C/Y = 3Y^{1/3}$ となる。

(3) (2) より限界費用曲線と平均費用曲線の関係は下図のようになる。よって限界費用曲線全体が供給曲線となる。利潤を最大にする Y は $p = MC$ で決まるため, $p = 4$ を MC に代入すると $4 = 4Y^{1/3}$ となる。すなわち $1 = Y^{1/3}$, よって, $Y = 1$ である。(2) より $L = Y^{4/3} = 1$, よって $K = Y^4/L^2 = 1$ となる。すなわち $Y = L = K = 1$ が利潤を最大にする Y, L, K である。このとき, 利潤 $= 4Y - 2L - K = 1$ となる。



(3)の別の解答 利潤 π は

$$\pi = 4L^{1/2} K^{1/4} - 2L - K$$

• 練習問題解答 2 7 5 頁下から 6 行目
(誤) 2 2 5/4 (正) 6 7 5/8

• 練習問題解答 2 7 6 頁上から 5・7・9 行目
(誤) 2 0 0/7 (正) 1 0 0/7

• 練習問題解答 2 7 6 頁上から 7 行目
(誤) 6 0/7・1 7 0 (正) 6 0 0/7

• 練習問題解答 2 7 6 頁上から 9 行目
(誤) 5 0/7・1 7 5 (正) 3 7 5 0/4 9

• 練習問題解答 2 7 6 頁上から 7 行目
(誤) 6 0/7・1 7 0 (正) 6 0 0/7

• 練習問題解答 2 7 6 頁最下行
(誤) $n = 3 + 2\sqrt{10}$ (正) $n = 2\sqrt{10} - 3$

• 練習問題解答 2 7 7 頁上から 2 行目
(誤) 企業 A は利潤 $\pi_A = px_A - xx_a^2$
(正) 企業 A は利潤 $\pi_A = px_A - xx_A^2$

• 練習問題解答 2 7 7 頁上から 6 行目

(誤) $p = 4x_A^2$, $\sqrt{p/4}$
(正) $p = 6x_A^2 = 6x_B^2$, $\sqrt{p/6}$

• 練習問題解答 2 7 7 頁上から 7 行目

(誤) $\sqrt{p/4}$
(正) $\sqrt{p/6}$

・練習問題解答 277頁上から8行目

$$\text{(誤)} \quad x = x_A + x_B = 2\sqrt{p/4} = \sqrt{p} \quad , \quad p = x^2$$

$$\text{(正)} \quad x = x_A + x_B = 2\sqrt{p/6} = \sqrt{2p/3} \quad , \quad p = (3/2)x^2$$

・練習問題解答 277頁最下行

(誤) 点 B では, $p = x^2$ と $x = \sqrt{50}$ によって, $p = 40$ となる。

(正) 点 B では, $p = x^2$ と $x = \sqrt{40}$ によって, $p = 40$ となる。